



令和5年度 校長だより

令和5年12月22日(金)

春日の風Ⅱ

No.8

文責 松下 義彦

後期前半を終えるにあたり

みなさんこんにちは。

今日は令和5年度 後期前半の終業日です。明日から冬休みに入りますが、年末年始にかけてみなさんは様々な計画を立てていることだと思います。どうか有意義な冬休みを過ごしてください。

年が明ければ、3年生はいよいよ高校受験が控えています。この冬休みの過ごし方も大事になってきます。自分の進路を確保するために、今年の冬休みは今までと違って勉強に追われるつらい日が続くかもしれませんが、自分のためにがんばってください。応援しています。それから、1・2年生のみなさんは、次の学年への準備期間になります。後期後半はあっという間に過ぎてしまいます。今年1年間の反省を活かして、次の学年につなげる期間にしてください。

さて、今日、みなさんに話したいことは、みなさんに身に付けてもらいたい「自己指導力」についてです。「自己指導力」とは、「その時、その場でどのような行動が適切であるか、自分で考えて、決めて、実行する力」のことです。自動車の運転に例えるならば、周りの状況を適切に判断しながら、アクセルとブレーキを操作して目的地に向かって進めて行くようなものです。アクセルを踏まなければ目的地に着かないし、危険な時はブレーキを踏まなければこれまた目的地に到達する前に事故を起こしてしまいます。中学生の時期は、その発達段階から「自己の確立期」と言われています。それは、周囲から何か言われてものごとをするのではなく、自分自身で考えて行動しようとする気持ちが芽生えてきたり、他の人との違いを自覚しながら、自分の個性を生かそうとする心が育ってきいたりする時期なのです。

そのような時期に大切なことは、**その考えや判断、行動が、独りよがりや思い付き、そして、衝動的なものにならないようにすること**です。しかし、十分な経験や体験のない中学生には、ややもするとその行動が判断の誤ったものとなったり、他の人との違いからその人を責めてしまったりすることがありがちになります。

そうならないために「自己指導力」を身に付けてほしいわけです。そのためには、客観的に自分を見つめるために「自分の中にもう一人の自分をもつ」ことができるようになることが重要です。自分で考え、自分で判断して行動する時に、「ちょっと待て、それでいいか、間違いないか、他にないか、適切な行動か、その発言が他人を傷つけることはないか」と「自分の中にもう一人の自分をもつ」ことによって自己を見つめ、自問自答できるようになることが、自己の確立期には求められるのです。

「もう一人の自分」を常に意識し、自己を見つめながら「その時、その場にふさわしい適切な行動や発言をする力」を身に付けた大人へと、みなさん一人ひとりが成長して行ってほしいと願っています。

明日からの冬休み期間中も、自分の行動に責任を持ち、自分で考え、自分で判断し、適切な行動がとれるような生活を送ってください。

それでは、みなさん、明日からの冬休みを元気に過ごし、良い年を迎えてください。新年1月9日に元気に会いましょう。

